



野田中だより

【学校教育目標】

志高く、学び考え実践する生徒
心豊かで、認め合い高め合う生徒
心身を鍛え、命を慈しむ生徒

『ほめて 認めて 励まし続ける』 川越市立野田中学校 令和8年10月1日 校長 澤村文香

野田中・新チーム初の公式戦 ～選手もサポートメンバーも、一所懸命取り組みました～

9月は雨が多く未だ野球の大会は続いているのですが、野田中新チームにとって初の公式戦、新人体育大会川越市予選会は終了しました。どの部活動も野田中学校の代表として、精一杯試合に臨んでいました。出場した選手の活躍は言うまでもありませんが、私が嬉しく、また立派だなあと感心したことは、選手として登録されていても試合に出なかったメンバーがサポートにあたる姿勢でした。いろいろな思いもあったと想像しますが、選手のために用具を整えたり、遠くに飛んでいってしまったボールを拾いに行ったり、グラウンドを整備したり、声を張り上げて応援したりと、笑顔で自分ができることを一所懸命やる姿に感動しました。こうして支えてくれる人がいて、初めて部全体の強さにつながっていくのです。

「部活動で大切なことは勝ち負けだけではなく」とは言うものの、真剣勝負を繰り広げる中で様々な「課題」が見つかったことと思います。その「課題」をどう克服していくか…。悔いを残さないためにも、試行錯誤しながら自分たちのチームを作り上げてほしいものです。

各会場では、多くの保護者の皆様から温かい応援をいただきました。ありがとうございました。



県公立入試制度は変わりますが、やるべきことに変わりなし【3年御器湖会・校長 奥野耕太郎】

過日、川越市中高特連絡協議会が開催され、市内10校の県公立高等学校・特別支援学校校長と、22校の中学校長が一堂に会し情報交換を行いました。最初に各高等学校・特別支援学校からそれぞれの学校の特色やアドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）等を紹介していただきました。私がどの学校にも共通していると感じたことは、「実際に足を運んで学校を見て、感じて、選択する」、「高校に入ったらやってみていことを自分の言葉で語れる」ことが必要であり、「日々の学習の積み重ね」が大切ということです。

今年度は、埼玉県公立高校入試が大きく変わります。①全ての県公立高校で面接を実施、②自己評価資料「My Voice (マイボイス)」の提出、③調査書様式の変更（簡素化）、④学力検査におけるマークシート方式の導入など、入試制度改革が行われます。しかし、制度の変更はあるものの、やるべきことはこれまでと変わりありません。埼玉県教育委員会発行のリーフレットに「入試は、中学校生活の延長線上にあります。決して実績のあることばかりではなく、なぜその活動に取り組んだのか、そこから何を学び成長できたのかを深く考え、自分の言葉で具体的に表現できる力を身に付けることで、それが入試、その先の高校生活にも繋がります。」と書いてありますが、日々の学習・生活を大切に、入試当日に精一杯の力が出せるよう準備を進めるまでです。

進路選択に伴い、保護者の皆様も気持ちが落ち着かないことはと思いますが、自分の進路に立ち向かう子供たちは尚更です。おうちを「ほっとできる場所」にさせていただくことで、お子様は踏ん張ることが出来ます。「おはよう、おやすみ、いってらっしゃい、お帰り」など日常の声掛け、温かな食事等のサポートをよろしくお願いします。保護者の皆様も焦り、不安、迷い等々、根気を要します。そんなときは遠慮なくご連絡をください。

参考：埼玉県公立高等学校入学者選抜情報（埼玉県教育委員会）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/nyuushi.html>

発明創意くふう展校内優秀作品

夏季休業中、たくさんの生徒が「発明創意くふう展」の作品作りにチャレンジしました。

1年生「ノンストレスプレー」

2年生「リュックまもる君」

2年生「安心浮力コップ」

上記3名の作品は、川越市内展の審査を通り、入間地区展へ出品されました。おめでとうございます！

～野田中・職員玄関左手のホールに展示してあります。ご来校時、ぜひご覧ください～

